

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、企業収益は足もとで弱含んでいるものの、景況感が概ね良好な水準で推移する中、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。住宅投資も振れを伴いながら堅調に推移している。一方、公共投資は基調としては低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、振れを伴いつつも緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は基調としては緩やかな増加傾向にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、5月の販売動向をみると、百貨店売上高は、身の回り品が好調に推移したものの、衣料品や食料品が苦戦したため、2か月振りに前年を下回った。スーパー売上高も、食料品、生活用品が不冴えとなったため、前年割れとなった。また、家電販売も、大型・薄型テレビは買い替え需要を中心に好調であったものの、エアコンやパソコンの販売が減少したことから、11か月振りに前年を下回った。このほか、乗用車販売では、普通車、小型車を中心に販売が引続き低調なため、全体では6か月連続で前年を下回った。

一方、旅行取扱高は、国内旅行で前年を下回ったものの、海外旅行で個人旅行に動意がみられたことから、全体では2か月連続で前年を上回った。

この間、主要観光地への入り込みをみると、デスティネーションキャンペーンの効果もあって、多くの施設で前年を上回った。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(6月短観調査)をみると、非製造業では小売、建設、リース等を中心に小幅の減少計画にある(前年比 1.6%)が、製造業では、化学(競争力強化、能力増強)、石油・石炭製品、輸送用機械(能力増強)、木材・木製品(効率化)を中心に増加計画となっている(同+11.0%)。この結果、全産業ベースでも増加計画となっている(同+6.4%)。

なお、前回調査(3月調査)と比較すると、電気機械、輸送機械、一般機械等の製造業を中心に上方修正されている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、足もとでは前年を上回っている(前年比:19/1~3月 16.5% 4~5月+37.0%)。

(3) 住宅投資

最近の県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、月々の振れを伴いながら堅調に推移している。5月は、マンションは落ち込んだものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では2か月連続で前年を上回った(前年比:4月+17.6% 5月+5.3%)。

(4) 公共投資

公共投資は、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、5月は、「国」、「県」、「市町村」が大型工事の発注や発注前倒しなどから前年を上回ったものの、「独立行政法人等」、「その他の公共的団体」が前年を下回ったため、全体では6か月振りに前年を下回った(前年比:4月+33.8% 5月 16.3%)。

(5) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、5月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に堅調に推移しているほか、西欧、中東欧・ロシア、北米向けも自動車(完成車)を中心に高い伸びとなっており、全体では17か月連続で前年を上回った(前年比:4月+30.6% 5月+40.2%)。

(6) 生産・出荷・在庫

4月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、化学、電気機械、鉄鋼を中心に全体では2か月連続の上昇となった(前年比:3月+3.6% 4月+2.5%)。

季調済前月比では、電気機械、輸送用機械は上昇したが、食料品工業や定期修理を行った鉄鋼などで低下し、全体では2か月振りに低下した(季調済前月比:3月+3.8% 4月 1.2%)。

この間、在庫指数は、輸送用機械、化学を中心に、11か月連続で前年を上回った(前年比:3月+8.5% 4月+6.3%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。鉄鋼、電気機械でも、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。また、自動車は、国内向けは弱めの動きが続いているが、輸出向けが完成車を中心に好調なため、なお高水準の操業を続けている。このほか、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。農機具では、一部では高めの生産を続けているが、全体としては低水準にある。また、繊維でも、安価輸入品との競合や海外への生産シフト等から、全体として低水準にある。この間、石油精製、石油化学は、定期修理を行っているため、生産水準は低下している。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い一部の先では、残業等による生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面では、4月の所定外労働時間は前年に高伸した反動もあって前年を若干下回った(前年比:3月 0.2% 4月 0.2%)が、5月の有効求人倍率は、高水準を続けている(4月 1.48倍 5月 1.46倍)。雇用面をみると、4月の常用労働者数は、退職者の増加等から前年を若干下回った(前年比:3月 1.0% 4月 0.8%)ほか、雇用保険受給者数も足もとは前年を上回ったが、解雇者数は低水準で推移している。このように、県内の雇用関連指標は足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、4月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った(前年比:3月 2.4% 4月 1.7%)が、岡山県内民間企業の19年春季労使交渉は、若干の増額で妥結している(アップ率:1.58%、岡山県経営者協会調べ<最終集計>)。

この結果、雇用者所得は、足もとでは前年を下回ったものの、基調としては緩やかな増加傾向にある。

(8) 物 価

5月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)をみると、被服及び履物、光熱・水道などが前年を下回っているが、生鮮食品を除く食料、家具・家事用品、保健医療等が前年を上回っているため、全体では前年比プラスとなった(前年比:4月0.0% 5月+0.2%)。

(9) 企業倒産

5月の県内企業倒産(東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(15件<前年18件>)、負債総額(30億円<同46億円>)ともに前年を下回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金

5月の県内実質預金をみると、個人預金が団塊世代の退職金流入もあって前年比プラスが続いているものの、法人預金の前年比マイナス幅が拡大したほか、公金預金が前年比マイナスに転化したため、実質預金全体の伸び率はほぼ横ばいとなった(月中平残前年比:4月+0.5% 5月+0.4%)。

(2) 貸 出

5月の県内貸出をみると、企業向けの伸びがほぼ横ばいで推移する中、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているほか、地公体向けも前年比伸び率が拡大したため、貸出全体の伸び率は拡大した(月中平残前年比:4月+1.6% 5月+2.0%)。

(3) 貸出約定平均金利

5月の新規貸出約定平均金利(総合ベース)は、2か月振りに前月比低下した。一方、ストック金利(同)は14か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111(代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

(付 表)

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	<p>国内向けの稼働率は低下しているが、輸出向けを中心に、全体としては高操業が続いている。</p> <p>国内向け生産は、小型車が一部車種の他工場への生産移管により減少しているほか、軽自動車も、他社向け供給の効果は継続しているものの、販売台数減少から生産水準を低下させている。輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、北米、欧州向けも新型車投入等によって持ち直しており、高操業を続けている。また、KDも新車投入等から持ち直している。</p> <p>この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。</p>
造 船	<p>高操業が続いている。</p> <p>大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業機械向け受注も堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>定期修理等により原油処理量および各製品の生産水準は低下している。</p> <p>この間、製品別の需要動向をみると、ナフサは石化メーカー向けが堅調に推移している。ガソリンは弱含んでいるが、軽油は国内需要が底堅く、輸出向けも好調。また、灯油は不需求期に入り減少している。なお、重油は、基調としては減少傾向にあり、電力向けも弱含みとなっている。</p>
石油化学	<p>一部先の定期修理により、基礎原料のエチレンおよび一部樹脂の生産量は減少している。</p> <p>この間、各製品の需要動向をみると、ポリエチレンは、プラスチックメーカー、自動車部品・家電製品向けを中心に需要は全体として堅調に推移しているが、定期修理に伴い生産量が減少している。塩ビ樹脂は、建設向けが堅調なものの、定期修理により生産水準は低下している。ポリスチレンは、汎用品を中心に需要が弱含む中、高付加価値製品へのシフトにより生産水準は若干低下している。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別にみると、薄板類は、自動車・家電メーカー向けの高付加価値品が好調だが、足もとは定期修理により生産水準が若干低下している。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、民間建設向け需要が堅調なことから、高めの生産水準となっている。棒鋼類は、自動車向けが好調なほか、建設向けも堅調に推移しており、生産量は持ち直している。</p>
耐 火 物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電気機械	<p>全体として、高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、電子部品は、液晶関連向けは、足もと若干弱めの動きがみられるが、携帯電話向け受注が増加傾向にあることから、全体としては高めの生産を続けている。スイッチは、携帯電話向けを中心に、新製品対応等から受注が堅調なため、高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、新製品投入効果が一段落し、生産水準は低下している。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合等から、全体としては低水準の生産が続いている。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより生産量は減少傾向にある。</p>
工作機械	<p>高操業が続いている。</p> <p>NC旋盤は、自動車関連メーカー向けを中心に、海外からの受注が堅調で、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>一部では高めの生産を続けているが、全体としては低水準にある。</p> <p>製品別にみると、携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調なことから、高めの生産を続けている。一方、コンバインは、国内での末端需要が低調なほか、端境期にあるため在庫調整を継続しており、全体としては低水準の生産が続いている。</p>